

薬物療法学

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅
 准教授 / 木村 治 准教授 / 鹿内 浩樹

【概要】

薬物療法学では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

本講義では、消化器系・呼吸器系における医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。

【学修目標】

消化器系疾患の病態に関する基本的事項を説明できる。
 消化器系に作用する医薬品の薬理および薬物治療に関する基本的事項を説明できる。
 呼吸器系疾患の病態に関する基本的事項を説明できる。
 呼吸器系に作用する医薬品の薬理および薬物治療に関する基本的事項を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	消化管の機能調節 教科書1 p463～470 悪心・嘔吐 教科書1 p486～489 教科書2 p340～342 便秘・下痢 教科書1 p490～497	消化管の機能性および器質性障害について説明できる。 便秘、下痢、悪心・嘔吐の病態について説明できる。 瀉下薬、止瀉薬、制吐薬の薬理作用と副作用について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-11-1)～4)	木村 治
2	胃食道逆流症 教科書2 p328～330 消化性潰瘍 教科書1 p475～486 教科書2 p330～333	胃食道逆流症について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 消化性潰瘍について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-11-1)～4)	木村 治
3	機能的消化管障害 教科書1 p497～498 教科書2 p337～338 炎症性腸疾患 教科書1 p498～500 教科書2 p334～337 痔疾患 教科書1 p500～501 教科書2 p342～343	機能的消化管障害について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 炎症性腸疾患について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 痔について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-11-1)～4)	木村 治
4	肝臓疾患とその治療 教科書2 p345～351	肝炎、肝硬変、薬物性肝障害などの肝疾患の病態と薬物療法について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-11-1),4)	柳川 芳毅
5	胆道・膵臓疾患とその治療 教科書2 p352～356	胆石症、膵炎などの胆道・膵臓疾患の病態と薬物療法について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-11-1),4)	柳川 芳毅
6	肝臓・胆道・膵臓に作用する薬物の作用機序 教科書1. p340～347	肝臓・胆道・膵臓に作用する薬物の作用機序について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》	柳川 芳毅

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		D-2-11-2),3)	
7	閉塞性換気障害とその治療 教科書1 p520～526 教科書2 p303～312	閉塞性換気障害（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）の病態・治療について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-12-1)～4)	鹿内 浩樹
8	拘束性換気障害とその治療 教科書1 p527～528 教科書2 p315～317 鎮咳薬・去痰薬・呼吸興奮薬 教科書1 p513～520	拘束性換気障害（間質性肺炎）の病態・治療について説明できる。 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬について説明できる。 《関連するモデル・コア・カリキュラム》 D-2-12-1)～4)	鹿内 浩樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

知識領域の期末定期試験（筆記試験）（100%）。試験終了後、正答を公開し問題の解説を行う。

【教科書】

1. 「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、栗原順一、田中芳夫編（南江堂）
2. 「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進編（南江堂）

【参考書】

病気がみえる vol.4 呼吸器（MEDIC MEDIA）
薬がみえる vol.2（MEDIC MEDIA）

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（80分）。
復習は、教科書、プリント、講義メモを活用し、学修を深めること（80分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D-2-11 消化器系の疾患と治療薬

- 1) 消化器系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-12 呼吸器系の疾患と治療薬

- 1) 呼吸器系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

木村 治（薬剤師）、鹿内 浩樹（薬剤師）
柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

【実務経験を活かした教育内容】

薬剤師としての実務経験または創薬に携わった経験を活かし実践的な教育を行う。

【その他】

(2026年度・薬学部)

この科目は主要授業科目に設定している